

平成 29 年度 社会福祉法人 高岡市身体障害者福祉会 事業報告

<法人全体>

当法人は、「利用者の尊厳と地域社会との共生・連携の思想を基本理念とし、公平で公正な法人経営に務める。」とともに、地域福祉(高岡福祉圏)の充実発展に寄与してきた。また、平成 30 年 1 月 21 日に法人創立 50 周年記念式典を挙行了した。

職員の働きやすい環境整備として、福祉機器を積極的に導入し、身体的介護負担の軽減を図り、産業医と連携しストレスチェックを実施することで職員の心のケアにも努めている。経営組織のガバナンスを強化し、経営資料の公開や機関誌の発行に留まらず、ブログで施設内の行事や出来事を発信している。

現在、「利用者や働く職員から選ばれる」法人を目指し、利用者の処遇改善と職員の待遇改善を進めている。

社会福祉事業

<本部拠点区分>

- ・平成 28 年度事業報告・決算の承認
- ・社会福祉充実計画の策定・実施
- ・理事・監事の選任
- ・理事長(代表理事)の選任
- ・業務執行理事の選任
- ・情報公開規程を整備
- ・法人創立 50 周年記念式典を挙行(平成 30 年 1 月 21 日)
- ・法人本部事務局長、志貴野苑・志貴野長生寮所長の選任

<志貴野苑拠点区分>

- ・志貴野苑入所施設の本年度の退所者は 0 名、入所者は 1 名であった。5 月に志貴野苑就労継続 B 型利用者男子 1 名が入所に切り替わったためである。
- ・入所利用者の支援区分見直しにより、区分 2 は 5 名が 2 名、区分 3 は 14 名が 14 名、区分 4 は 7 名が 9 名、区分 5 は 6 名が 7 名、区分 6 は 0 名が 1 名と年齢と共に重度化している。
- ・就労継続 B 型の退所者は 2 名、新規利用者は 5 名であった。退所理由は、入所への切り替え及び高齢により契約終了である。新規利用者 5 名の内 4 名は、平成 29 年 6 月より開始した送迎サービスを利用されている。
- ・平成 29 年度就労支援の事業別売上は、加工事業では 18,972,891 円、印刷事業は 24,534,736 円(いずれも内部取引含む)で、合計 43,507,627 円であった。前年比 3.1%アップのやや増となった。平均工賃は前年比 18.2%アップの 28,099 円であった。加工の売り上げが伸びている事や機械更新

- の積み立て分を利用者工賃に還元した事が増加につながっている。
- ・設備整備において、平成4年に導入したエレベーターの更新および居室の照明のLED化をおこなった。
 - ・志貴野苑障害者相談支援センターは、平成27年9月より休止中であり、高岡市志貴野身体障害者相談支援センターに於いて、志貴野苑利用者のサービス等利用計画やモニタリングを作成している。

<志貴野ホーム拠点区分>

- ・志貴野ホーム入所施設の本年度の退所者・入所者は其々2名であった。平成30年3月31日時点での入所待機者は、男子5名女子5名計10名である。以前は、脳血管障害の利用者が70歳を目安に介護保険施設へ移行をしていたが、現在は障害の特性（先天性の障害）から介護保険施設への受け入れも難しく、又利用者の此処にいたいという主張もあり、待機者の受け入れ予定はたっていない。
- ・H26年4月～障害支援区分施行となり、より障害の多様な特性に応じた支援の度合いが反映されたことから入所利用者支援区分は、区分6が34名、区分5が15名と区分5・6の示す割合が94%で、重度化が進んでいる。
- ・設備整備において、合併浄化槽から公共下水道への切り替えを実施した。
- ・短期入所は、平成29年度の延利用者は、908人で、2.49/日。最近は、重度（区分5・6の示す割合が84%）で個室対応が必要な利用者、又生活介護を前後に利用してのⅡ型利用者が多いのが特徴である。マンパワー不足により、1日当たり2名前後での受け入れを継続している。
- ・志貴野ホーム障害者福祉センターでは、1名（区分6）病死により契約終了となっている。また、1名（区分5）が入院中で、退院後は介護保険施設への入所を検討している。新規利用希望については、2～3名挙がっており平成30年度以降に契約を進めていく予定である。介護現場においては、職員の退職により送迎や入浴等で人員不足が目立っている状態である。
- ・高岡市障害者福祉センターの契約終了者は3名（2名が施設入所のため、1名が介護保険移行のため）となっている。新規利用者は2名で、うち1名は若い利用者で今後の継続的な利用が望める。設備整備において、照明を全面LEDに交換している。「明るくなった」と利用者・家族からも大変好評である。
- ・志貴野ホーム障害者福祉センターや高岡市障害者福祉センターで実施している自立訓練事業については、利用者が5年間半無く、今後の事業継続については、協議が必要となる。

<志貴野長生寮拠点区分>

- ・平成 29 年度の入退所は 26 人。(H19 年度～H29 年度の平均入退所は 20.0 人/年)
- ・平成 29 年度の平均入所実稼働率は、97.52%で目標値 98%以上を達成できなかった。背景には入院者の増加が大きく、いかに入院を減少させるかが重要であるが、高齢者で要介護度の高い方は全身状態が良くない場合も多く、入院につながりやすい傾向がみられている。
- ・平成 29 年度の入所者の平均介護度は 4.04、退所者の平均介護度は 4.08。昨年度と同様に同一年度内で入退所となった利用者が 4 人おり、重度者の入所利用が顕著。
- ・平成 29 年度は養護からの入所も昨年度と同じく 6 件あり、養護の重度化は一層進行している様子。
- ・平成 30 年 3 月 31 日時点の入所待機者は 42 人。うち要介護 4, 5 の人数は 16 人。
- ・特養は、他施設では利用を渋られる生活保護受給者や法人減免対象者などの受入も社会福祉法人の使命として積極的に行っており、平成 30 年 3 月 31 日時点で生活保護受給者 9 人、法人減免適用者 2 人を受入。
- ・短期入所は、平成 28 年度の延利用者数は 1,424 人で平均約 119 人/月。平成 28 年度平均約 110 人/月より改善し、稼働率も目標 75%以上を達成した。
- ・平成 29 年度は短期入所の実利用者数は 46 人。平成 28 年度実人数が 43 人であり、新規利用者の増加傾向は継続している。
- ・短期入所は、緊急的な利用希望にもできるだけこたえるために、介護現場の理解と協力が不可欠だが、それが十分に得られていることもあり、利用率向上につながっている。
- ・短期入所は、他事業所では受入困難な利用者（尿留置カテーテル、ストマー、インスリン注射など）の受入も実施しており、そうした情報の周知が居宅ケアマネジャーの間にも進んでおり、利用率向上につながっていると思われる。
- ・通所介護の平成 29 年度の通所介護の平均利用者数は 8.96 人/日。平成 28 年度 10.08 人/日、平成 29 年度 10.03 人/日と利用率の減少傾向が続いている。背景には利用者が入所したり、養護の利用登録者が入院や短期入所重視型利用に切り替わったりで利用が少なくなったという面もあるが、従来から懸案となっている在宅の利用者の獲得が思うように進んでいないことが大きく、どのように地域に対して事業所をアピールしていくか、営業力が求められていると思われる。
- ・居宅介護支援は、平成 29 年度は契約人数が 6 人増加し 39 人。今後も契約者の増加傾向は続く見通し。

- ・志貴野長生寮としては、平成 29 年度は、約 2,200 万円の赤字。この金額は、社会福祉充実計画に基づいて平成 29 年度事業として利用者居室ベッドを全面更新した際の費用とほぼ同じ。